

原水爆禁止2019年世界大会へのメッセージ

今年も「原水爆禁止世界大会」が滞りなく開催され、核兵器の廃絶に向けた皆様のこれまでの取組に対し深く敬意を表する次第です。

74年前、広島と長崎に原爆が投下され、一瞬にして多くの尊い生命が犠牲となり、生き延びてもなお、心身に深い傷を負い、今も苦しんでいる方がおられることに、胸が締め付けられる思いがいたします。

悲惨な地上戦が行われた沖縄でも、多くのかけがえのない生命が失われ、被爆地の皆様と同様に、戦争の不条理と残酷さを身をもって体験しました。

この筆舌に尽くしがたい体験を、後世に語り継ぐために絞り出された戦争体験者の証言などに触れるたび、人間が人間でなくなる戦争は、2度と繰り返してはならない、平和こそ何事にも代えがたい宝であると、決意を強くするのです。

沖縄県では、とこしえに平和を求めてやまない沖縄県民の心を内外に強く、広くアピールするため、平成7年に「非核・平和沖縄県宣言」を行いました。

私達は、非核三原則を将来にわたって堅持し、平和の大切さを正しく次世代に伝えていくことが、恒久平和の実現に繋がるものと考えております。

結びに、この大会が契機となり、核兵器のない平和で公正な世界の実現に向けた取組が大きく実を結んでいくことを祈念して、挨拶とさせていただきます。

令和元年8月8日

沖縄県知事 玉城 デニー